

坂詰姫野が日本代表選手に! 国別対抗戦、BJK杯で勝利



日本リーグ以降、国際大会で結果を残し、日本代表選手として結果を出した坂詰選手



杉山愛監督の初陣で、坂詰はチームの勝利に貢献した

ビリー・ジーン・キング・カップ 2023年4月11日～4月15日

ラウンド	日	日本	スコア	相手
第1日 4.11	1	本玉真唯	6-1, 6-4	韓国 BoYoung JEONG
	2	内島萌夏	6-4, 7-6(4)	Yeonwoo KU
	3	青山修子/穂積絵莉	7-5, 6-2	Ji-Hee CHOI/Dabin KIM
第2日 4.12	1	本玉真唯	6-1, 6-1	タイ Anchisa CHANTA
	2	内島萌夏	4-6, 7-5, 5-7	Mananchaya SAWANGKAEW
	3	青山修子/穂積絵莉	6-2, 7-5	Luksika KUMKHUM/Peangtarn PLIPIUECH
第3日 4.13	1	坂詰姫野	6-1, 6-2	ウズベキスタン Sabrina OLIMJANOVA
	2	本玉真唯	6-1, 6-1	Sevil YULDASHEVA
	3	青山修子/穂積絵莉	6-0, 6-0	Mafusika KAHRAMONOVA/Ominahon VALIHANOVA
第4日 4.14	1	本玉真唯	6-1, 6-0	インド Rutuja BHOSALE
	2	内島萌夏	6-2, 5-7, 6-3	Ankita RAINA
	3	青山修子/穂積絵莉	6-3, 6-4	Vaidehi CHAUDHARI/Sahaja YAMALAPALLI
第5日 4.15	1	坂詰姫野	4-6, 6-4, 6-1	中国 Xinyu JIANG
	2	本玉真唯	7-5, 6-2	Wushuang ZHENG
	3	青山修子/穂積絵莉	Not played	Xinyu JIANG/Wushuang ZHENG

4月11日～15日、女子テニスの国別対抗戦、ビリー・ジーン・キングカップ（BJK杯）の代表選手に、チーム HAT の坂詰姫野選手が初選出され、日本代表として勝利に貢献した。

2月の日本リーグ後、カナダのITF（国際テニス連盟）主催の大会にて2大会連続決勝進出という成績を取めた坂詰は「今まで積み重ねてきたことが形になってきました」と、充実している様子を語っていた。

BJK杯アジア・オセアニアゾーン・グループIは、ウズベキスタン、タシケントで行われ、6か国（日本、中国、インド、韓国、ウズベキスタン、タイ）が、シングルス2試合+ダブルス1試合の合計3試合、総当たりで対戦する形式となっている。

杉山愛監督の初陣となる今大会、坂詰の日本代表デビュー戦は、第3戦のウズベキスタン戦となり、相手のサブリーナ・オリミヤノワを6-1 6-2で撃破しチームの勝利に貢献した。最後の試合となる中国戦でも、ジャン・シンユーを4-6 6-4 6-1で下して、初選出という中で結果を残した。

最終的に日本は全勝で1位となり、来季のファイナルズ予選出場をかけた11月のプレーオフに進出することとなった。

杉山愛監督は「試合の中でコミュニケーションを取りながらどんどん良くなっていった」と坂詰を絶賛し、今後の期待を膨らませた。

インタビュー



多くのジュニアたちが切磋琢磨し合う Team YUKA

チームの総監督として、また自らヘッドコーチを務める Team YUKA の代表としてテニスの指導・育成現場で活躍する吉田友佳氏にテニスとの出会いや、指導において重視していることなど、話を聞いた。

目標は本当に大事なところで チャレンジしないと 達成できない

テニスとの出会い

私がテニスを始めたきっかけは、両親が趣味でテニスをしてたことからでした。ニック・ボロテリー・テニスアカデミー（NBTA）日本校を両親の友人から紹介されて、入校したことが始まりです。そこで一緒だったのが、杉山愛さんや岩淵聡さんと、強いジュニアでした。一番身近に同じ目標、プロになりたい、強くなりたいという仲間恵まれたことで、自然にジュニアで頑張ることができました。

当時はそれほど負けず嫌いというわけではなかったのですが、そのアカデミーは毎週試合があり、ランキングもありました。勝ったり負けたりということがすごく大事にされており、ランキングの上を目指すうちに、自然とテニスにのめり込んでいました。

プロになると決断したのは、高校最後の年に全米オープンジュニアのシングルスとダブルスで準優勝したことでした。161cmの小さい私が世界で戦えるのかとても迷っていて、やはり覚悟が必要でした。この大会が決断する最後の機会と思って戦い、結果を経て決めました。自分もそうでしたし選手にも同じ気持ちですが、勝ち切るべき大会で結果を残すということは、とても重要なことだと思っています。

世界で戦うということ

身体のサイズが小さかったので、今思うと身体の使い方をすごく大事にしていたと思います。少しでも高い打点で叩けるようにジャンプして高い打点でボールを捉えるようにしていました。また、一つの選択ミスで一気に押されてしまうので、ボールの見極めや駆け引き、身体を思い切り使うとか、そういうのをよく考えていたと思います。それが世界でも50位くらいまで行けた（最高ランキングシングルス52位、ダブルス51位）秘訣かもしれません。逆にパワー勝負で勝っていたわけではないので、現在指導していく上でも生かされていると思います。

指導の現場で

ジュニアを指導するにあたり、センスがあるとか、この子いいよねとか、見た感じでそういう選手はたくさんいますが、大切なのは、全国のタイトルを取りに行った時、16、18歳で勝ち切れるかはすごく大きいと思います。世界で勝っていくには技術や体力、色々な能力がありますが、それ以上にファイトする、どんな時も諦めずに頑張る、決めた目標をしっかりとクリアするというのは、大切です。低年齢の頃は、あまり勝ち負けを意識させないようにしています。



PROFILE

吉田 友佳

Yuka Yoshida

4月1日生まれ。全日本選手権単複優勝、WTA ツアーではダブルス3勝。引退後はビリー・ジーン・キング杯の前身であるフェド杯代表監督を務める。2010年にTeam YUKAを立ち上げる。元プロの吉田と、アスレティックトレーナー金子和宏が中心となり、世界へ挑戦したいという夢を持つジュニアを育てている。

<http://team-yuka.com/>



指導にあたる坂詰と



ジュニア選手たちも坂詰の BJK 杯を応援した

ランキングについて

今はランキングをつけることについて、色々言われることもあります。私は世界ランキングも、ジュニアランキングも、やっぱりうまくできていると思います。自分の位置がすぐ明確にわかるし、ジュニアたちも自分が今どの位置にいて、どこを目指すのか。来年はまずシードの16に入ろうとか、ランキングが付くには何大会出ないとはいけないとか、目標設定がしやすくて、やっぱりランキングは嘘をつかないと思います。

目標設定

アカデミーの生徒には、まず、月の目標シートを1人ずつ出してもらっています。そして試合を行い、みんな同じシートに自分なりの考えを書いて、毎月試合のビデオも提出してもらいます。1人ひとりが考えたことと、私が試合のビデオを見て感じたことがちゃんと一致しているのか確認します。それを繰り返していると色々なことが見えてきます。足りないことがわかれば、やるべきことも見えてくる。その繰り返しです。

指導で何を大切にしているか

私が練習や試合で何が気になるかというと、だらだらとやっていないか。ちゃんとボールを拾ってテキパキと1分も無駄にしていないかということです。プロになった坂詰姫野や、望月慎太郎といった全国へ行って結果を残す選手たちは、やっぱり1球も無駄にしませんし、自然とそういう動きができます。少しでも多く打つために自分がどう動くかという感性を持っている人が多いですね。

全国を目指すジュニアには、背伸びしないと届かない目標を与えたりもします。自分もそうだったのですが、そこには行ける、できると確信持つことで、初めて近いところに行けると思っています。目標は本当に大事なところでチャレンジしないと達成できないので、小学生の試合もプロの試合も同じ目線で見ています。よく親御さんは、試合で「もうダメかも」とネガティブに見ている方もいらっしゃるのですが、いや、伝わりますからって(笑)。私は絶対できる、絶対やると思って見ているので、目先の勝った、負けたで一喜一憂していたら到底たどり着けません。目標には相当背伸びしてでも食らいついていかないと。それは選手もコーチも同じかもしれませんね。

4月から新たに所属する選手を紹介します!

福田 創楽

Sora Fukuda



今回橋本総業ホールディングスの所属選手となることができ、とてもありがたく思っています。膝の前十字靭帯断裂をし、2年くらいかかって、ようやく戻ることができました。身体は問題なく、少しずつランキングを取り戻していきたいと考えていた折だったので、感謝しています。また、チームで集まり、選手同士で話す機会も増えたので、自分自身のランキングアップの刺激にもなっています。僕はまだ日本リーグで一度も優勝したことがないので、チームに貢献できるよう、頑張っていく予定です。

渡邊 聖太

Seita Watanabe



橋本総業ホールディングスの選手への手厚いサポートや、テニスをする環境が非常に整っているところが魅力的に感じ、契約に至りました。橋本総業に加入することができ、大変嬉しく思います。現在個人として目標としているのは、グランドスラム出場、全日本選手権単復優勝です。所属選手として、常に最高のパフォーマンスを発揮し、応援して下さる方々やスポンサーの方々に喜びを与えたいと思っています。所属選手として良いものをたくさん吸収して、日々練習に励み、全力で戦っていきます。

大前 綾希子

Akiko Omae



昨年島津製作所から今年度いっぱい契約終了し更新しませんという通達があり、私も若くはないので、新しい所属先を探すのはすごく大変でした。今回、契約していただけて、本当にありがとうございます。橋本総業ホールディングスは、選手の人数がとても多く、応援して下さるサポーターも多いので、まずは日本リーグに出場できるよう頑張ります。これまで緊張感のある中試合をしてきた経験は多いので、それを武器にどんな状況でもどんとコートに立てるメンタリティを持つ存在でありたいと思います。

奥脇 莉音

Rinon Okuwaki



元々パッチ契約をさせていただいていましたが、所属すると今以上に海外を回れるということを感じ、契約させていただきました。高校を卒業し、時間的にも経済的にも自分の気持ち的にもさぁ行こうと思っていたので、大変ありがたく思っています。日本リーグはまだ見たこともないので、正直よくわからないのですが、チームの足を引っ張らないようにベストを尽くせるようにすると、自分もレベルアップしていった個人でも貢献できるようにしたいですし、もっと強くなりたいです。

協賛大会が 開催されました!

協賛大会

かしわ国際オープン
テニストーナメント
4月3日～9日

橋本政昭会長が女子決勝の
コイントスを行いました



協賛大会
亜細亜大学
国際オープンテニス
3月20日～26日

協賛大会にて、
井上明里選手が
ダブルス優勝

DOUBLES
優勝

井上 明里

Akari Inoue



その他の協賛大会

- 全国高校選抜テニス選手権 3月20日～26日
- 甲府国際オープンテニス 3月27日～4月2日

DOUBLES
WTA500
準優勝

柴原 瑛菜

Ena Shibahara

WTA500
アメリカ・チャールストン
4月3日～9日
ボルボ・カーズ・オープン
ダブルス準優勝

坂詰 姫野

Himeno Sakatsume



ITF W25
SINGLES
準優勝

ITF W25
カナダ・トロント
2月27日～3月5日
シングルス準優勝

ITF W25
SINGLES
準優勝

ITF W25
カナダ・フレデリクトン
3月6日～3月12日
シングルス準優勝

